

学校だより



ひがし

令和3年11月1日発行
第9号
伊豆市立修善寺東小学校
TEL0558-72-0420

- ◆学校教育目標「よく学ぶ たくましく 心やさしい 東っ子」
- ◆ 重点目標 「自分の考えをもち、表現しよう。人を大切にしよう。目標に向かって挑戦しよう。」

全国学力・学習状況調査の結果と考察

5月27日に6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果と考察をお知らせします。(例年は4月下旬に実施しておりましたが、コロナウイルスの影響で昨年度は実施せず、2年ぶりの実施)一昨年度よりA問題(知識)とB問題(活用)が一体化されました。この調査の目的は、「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のための取組に活かしていくこと」にあります。本校でも全教職員で結果を分析し、一人一人の課題を把握しながら対策を考えました。各学年の日々の授業に生かすとともに、実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫・改善し、学力向上に取り組んでいきたいと思ひます。

【教科に関する調査の結果と考察】

★本校の平均正答率は、国語・算数とも、全国平均とほぼ同じでした。無解答の問題はなく、どの子も最後まで粘り強く問題に取り組んだことがうかがえます。

★国語では、「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は全国平均と比べてかなり高く、話し手の意図を考えながら聞き、質問したり考えをまとめたりする力が確実に身に付いていることが分かりました。

課題が見られたのは、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」ことと「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」ことです。指定された条件に合うように書く場面を増やすなどの工夫をしていきます。また、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」ことにも課題が見られました。国語辞典も活用しながら、語彙を増やし、言葉と言葉の関係について考えられるようにしていきたいと思ひます。さらに、一昨年同様「漢字を文の中で正しく使う」ことにも課題が見られました。漢字を書く問題では、漢字の持つ意味を考えながら適切に使えるよう、形式的な漢字練習にとどまらず、漢字に親しめるような工夫をし、日々の生活の中で習った漢字を進んで使う意識を高めていきたいです。



★算数では、条件に合う時刻を求めたり、棒グラフから項目間の関係を読み取ったり、示された除法の結果について日常生活の場面に即して判断する問題は、10人全員が正解しました。

課題が見られたのは、「直角三角形の面積を求める」問題と「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める」問題です。図形の構成を捉えられるように、図形の構成要素に着目させていきます。また、「基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を書く」問題にも、課題が見られました。単位量当たりの考え方は毎年課題となっておりますので、今後も丁寧に指導していきます。さらに、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題」にも課題が見られます。また、「データを二次元表に分類整理すること」や「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断すること」にも課題が見られました。情報量が多くても一つ一つ筋道を立てて粘り強く考えながら読み進めたり、適切に表現したりする力を伸ばせるよう、他教科とも関連させながら繰り返し指導していきます。

【児童質問紙調査の結果と考察】

- ★**生活習慣**（朝食を毎日食べているか、同じくらいの時刻に起きているか）については、概ね良好で全国平均とほぼ同じような結果となり、ご家庭と連携しながら進めている取組が、一定の成果となって現れていることが分かりました。
- ★**学習習慣**（家で計画を立てて勉強をしているか）と生活習慣（同じくらいの時刻に寝ているか）については、課題が見られましたので、学校でも指導をしますが、ご家庭のご協力もお願いしたいところです。
- ★**自己有用感**を問う設問「自分にはよいところがあるか」は、全国平均に比べ「当てはまる」と答えた子の割合が低いです。また、「将来の夢や目標を持っているか」についても、「当てはまらない」と回答した子の割合が全国より高かった点が気掛かりです。夢や目標をもてるような働き掛けや、周りからのプラスの評価を受け入れ、自分のよさを実感できるような取組を継続して行い、自信を深めていきたいです。
- ★ほとんどの子が「新聞をほとんどまたは全く読まない」と答えていますが、全国的にも新聞離れは進んでいるようです。
- ★「コンピュータ等の使い方について、家の人と約束したことを守っているか」については、「あまり守っていない」か「約束自体がない」という回答が見られました。ご家庭で、お子さんと是非話し合っただきたいと思います。
- ★一昨年までと傾向が大きく異なったのは、ほぼ全員が「国語や算数の勉強は大切だと思うか」「国語や算数の授業で学習したことは将来役に立つと思うか」などの設問へ肯定的な回答をしていることです。勉強が大切で役に立つと思えるなど、学ぶことの意義を見いだせていることは素晴らしいことです。さらに学習への興味関心を高め、意欲をもって主体的に取り組めるような働きかけを工夫していきたいと思います。



今年度の結果から見えてきた課題の中で、特に「自己有用感」を高めることをこれまで以上に大切にしながら今後の教育活動に取り組んでいきます。ご家庭でも、「子どもの話を聞く時間」を意識して作っていただけるとありがたいです。親も子も忙しくて一緒に夕食を食べられず、夕食前後も子どもはゲーム、大人は家事と別々の時間を過ごすことが多いのかもしれない。しかし、短い時間でも、子どもの話に耳を傾けることで、お家の人に目をかけてもらっていること、大切な存在として認めてもらっていることが伝わり、意欲や自信につながっていくと思います。子どもたちの主体性を伸ばし、生きる力を育てていくために、保護者の皆様の後押しをお願いいたします。

（文責：井村）